

JAERA NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言・2022年度 定時社員総会のご案内… P1
 □2022年度自動車リサイクル士講習会のご案内… P2 □理事会・ブロック長会議・各ブロック会議
 (中部北陸・中国四国・関東)の開催結果…P3 □業界イメージアップのヒントを探る…P4
 □2022年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業 4月出荷状況・4月新車販売・使用済自動車発生台数 … P5
 □鉄スクラップ最新情報 … P6 □行事予定・お知らせ/編集後記 … P7

vol. **159**

2022年度 定時社員総会のご案内

01

当機構の「定時社員総会」が3年ぶりに対面(Webも併用)で開催されることとなりました。ただし、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、対面でご参加される場合にソーシャルディスタンスを確保することが出来るよう、今回は支部長もしくは代理の方1名のみのご参加でお願いさせていただきます。

開催日
2022年6月20日(月)
場所
鉄鋼会館 (東京都中央区日本橋茅場町3-2-10)
時間
■定時社員総会：14:00～15:30 / 13:30 受付開始 ※対面でのご参加は、各支部1名とさせていただきます。

■新型コロナウイルス感染予防対策について

- 密を避けるため、余裕のあるレイアウトにより開催します。
- 来場者は、各支部1名といたします。(理事・監事は除く)
- 会議中はマスクの着用をお願いいたします。
- 会場へ向かわれる前に体温測定をお願いします。
37.5℃以上ある場合は、ご来場をお控えください。
- 入室時の手指消毒・体温測定(37.5℃以上は参加不可)にご協力ください。

社員の皆様へのご案内は5月20日個別にメールでお送りしています。出欠のご連絡につきましては、6月10日(金)までに出席回答票にてお知らせくださいますようお願い申し上げます。万が一、届いていない場合は機構事務局までお問い合わせください。

巻頭言

本紙の編集会議は毎月行われています。今回の会議では「いかに多くの会員様に本紙を閲覧していただくか？」が議題の1つとして取り上げられました。

通常、会員の皆様は事務局からのメールでのお知らせをご覧になり、そこに記載されたリンクをクリックして本紙をご覧になるかと思えます。しかし、このプロセスをスマホ行なうと、使い勝手が悪く、改善の余地があることが分かりました。(気づくのが遅くてすみません)特にスマホの場合、わざわざスクロールせず、1画面の中で情報を簡潔させた方が明かに読みやすい印象となります。

今月号からメールでの案内のレイアウトが変化しているのもその一環です。(お気づきになられたでしょうか?)

今後も会員様の目線に立った配信を心掛けていきますので本紙をよろしく願います。

〈広報部会 小宮山 敬仁〉

《編集・発行責任者》
 一般社団法人日本自動車リサイクル機構
 広報部会長 永田 則男

《お問い合わせ先》
 一般社団法人日本自動車リサイクル機構
 〒105-0004
 東京都港区新橋3丁目2番2号
 TEL: 03-3519-5181
 FAX: 03-3597-5171
 MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp
 H P: http://www.elv.or.jp/

2022年度自動車リサイクル士新規講習会のご案内

02

2022年度の自動車リサイクル士講習会の詳細日程が決定しました。
 新規・更新講習会のそれぞれ1カ月程申し込み期限がございますが、新規講習会の方は各試験会場で定員を設定しておりますので、お申込みはお早めにご検討ください！

■新規講習会

申込期間	2022年6月13日(月)～7月20日(水)まで ※当日消印有効
講習会	WEB上で講習動画の視聴(期間内にいつでも視聴出来ます。) 9月5日(月)～11月25日(金)まで
修了試験	講習動画を試験日までにご視聴のうえ、以下7会場のいずれかで受験 ① 札幌会場 : 10月 7日 (金) 14:00～15:00 札幌市教育文化会館 ② 仙台会場 : 10月14日 (金) 14:00～15:00 東京エレクトロンホール宮城 ③ 東京会場 : 10月21日 (金) 14:00～15:00 赤羽会館 ④ 名古屋会場 : 10月26日 (水) 14:00～15:00 日本特殊陶業市民会館 ⑤ 岡山会場 : 10月28日 (金) 14:00～15:00 岡山市勤労者福祉センター ⑥ 福岡会場 : 11月 2日 (水) 14:00～15:00 福岡県立ももち文化センター ⑦ 沖縄会場 : 11月11日 (金) 14:00～15:00 いちゅい具志川じんぶん館
合格発表	12月頃に機構ホームページで発表 (合格者には2023年の1月下旬に順次認定書等を送付)

※試験会場では十分なコロナ対策を実施します。

■更新講習会

申込期間	2022年6月1日(水)～7月4日(月)まで ※当日消印有効
講習会	WEB上で講習をライブ配信するサテライト方式 9月9日(金) 10:00～16:00 ※最後に確認試験がございますが、合否を判定するものではありません。
認定証の送付	2023年の1月下旬に順次認定証等を送付

※更新対象者の方には、5月30日に更新のご案内を郵送いたします。(到着は6月1日以降)

■講習会の詳細、お申込書類はこちらをクリック↓

<https://www.elv.or.jp/35-87-0.html> (2022年度講習会関連情報！をクリック)

自動車解体業者のみならず
社員教育にお困りでないですか？



-2022年度-
自動車リサイクル士新規講習会

お申込は 2022年7月20日(水)まで(当日消印有効)



▶自動車リサイクル法とは？
▶解体業者の役割って？
▶適正な処置をするには？
▶安全な作業のためには？

【申込み・問合せ】
一般社団法人日本自動車リサイクル機構
TEL: 03-3519-5181
住所: 〒105-0004 東京都港区新橋
3丁目2番2号5F

▶講習: WEB上の講習動画を視聴 ▶修了試験: 会場で受験
※受験会場では、十分なコロナ対策を実施します。

<お問い合わせ先>
 一般社団法人日本自動車リサイクル機構 事務局 (担当: 京野)
 ■TEL: 03-3519-5181 ■FAX: 03-3597-5171
 ■Mail: jaera-homepage@elv.or.jp

<https://www.elv.or.jp/media/20/20220527-zirisi2022tirasi.pdf>

2022年度 第1回理事会

「組織の活性化、会員増強に焦点」

03

5月17日に東京都のForumS 3東洋海事ビルにて、対面とWEBを併用した形式での開催となりました。6月の社員総会に向け、2021年度の事業計画に対する取組み報告と2022年度の事業計画案の2つが主な内容となりましたが、なかでも“組織の活性化と会員の増強活動”という点に焦点が当たりました。新型コロナによる規制等が徐々に緩和されつつあるなか、状況に応じてリモートと対面での活動を併用することで効率的・効果的な活動を目指すということ、また、会員のいない空白県をなくす活動を行うことで組織力の強化を図るなど、今後の機構としての在り方を含め、多くの意見が上げられた会議となりました。

2022年度 第1回ブロック長会議

「自動車リサイクル士制度への思いや意見が集中」

04

理事会と同じ5月17日に同方式で開催されました。各ブロックの入庫状況や今後の活動予定、新たな支部設立の動きについてなど報告・共有事項が中心となりましたが、今回「自動車リサイクル士制度」について数多くの意見が飛び交いました。この資格制度の良さや必要性を解体事業者の方々に更に周知することはもちろんのこと、自治体や他団体などこの業界に関係する方も大きく巻き込んで活動していくことが大事であるといった意見が印象的で、そのためにより多くの方に資格を取得していただく必要があり、より受講しやすい講習会づくりにも取組んでいかなければならないといった意見も上がりました。



また、この資格を取得することによるメリットを高めるための活動など制度自体のプレゼンス向上を図る活動についても是非進めて欲しいとして閉会となりました。

各ブロック会議の開催結果

05

中部・北陸ブロック（4月19日 対面開催）

「ブロック活動の活性化を」

岐阜県のハートフルスクエアGでの開催となり、本部からは木内副代表と事務局が出席しました。

中部・北陸ブロックでは、今秋頃ブロック全体研修会の開催を予定しており、今回はその開催方法など意見交換が行われ、「ブロック活動をより活性化させたい」「会員の皆様との繋がりを強固にしたい」という思いが感じられる会議となりました。

中国・四国ブロック（4月25日 対面開催）

「一致団結して」

岡山県の岡山サムライスクエアで開催され「一致団結して情報共有しながら進めていきたい」という中村ブロック長の言葉で会議がスタートしました。組織の活性化、会員拡大について、会員数の把握、空白県の対策、活性化するための会議の在り方について確認と意見交換が行われ、また、自動車リサイクル士制度についても自治体へのアプローチ方法の検討など多くの意見が上がりました。



関東ブロック（4月27日 WEB開催）

「対面など活動の再開を」

新型コロナ感染拡大防止のためWEBでの開催となり、各支部で抱えている懸念事項や活動報告、意見交換などが活発に行われました。特に新型コロナの感染者が多い関東ブロックでは、支部での活動に制限がかかり難しい状況が続いておりましたが、今後は状況を見ながら徐々に対面などの活動再開を検討し、きちんと状況を見据えて機構の活動を活性化していきたいという思いが強く伝わる会議となりました。

新年度企画「業界のイメージアップ！」に向けた第1弾として会員企業の新入社員さんを中心にインタビューし、この業界・企業に決めたポイントを聞きながら業界の新たな魅力を発見していきます。今回は、愛知県弥富市の株式会社カーグリーコマゼンです。

新入社員さんへのインタビュー

Q:入社するにあたり、この業界・会社に決めた理由は？

金城さん：私は、小さい頃ブラジルで暮らしていました。そして大学では、日本の大学で日本と海外諸国の文化や文化の違いについて学ぶ中で、日本の環境へ取り組み(SDGs)に興味を持ちました。

選考を進めていく中で、カーグリーコマゼンの環境への貢献度や、今後の海外展開も視野に入れた取り組みを行っていると感じ、自分の経験と、ポルトガル語などの語学力を活かし、会社だけでなく国際社会に貢献出来る人間になりたいと思い入社しました。



勝さん：私は就職活動をする中で、人と関わる仕事に就きたいと思っていました。元々、自動車業界はあまり関心がない分野でしたが、大切に買った車を、新しいユーザーに繋ぐこと、車をきっかけに人から人へ思いを繋いでいく仕事に感銘し入社を決めました。

また、自動車解体やスクラップと聞くと、漠然と“汚い”や“古い”、“怪しい”といったイメージもありましたが、いざ選考の際に会社に訪問してみると清潔感があって、店舗もきれいで、書類の手続きなども適正に処理されていてイメージよりもずっと印象が良かったです。

Q:仕事の中でのやりがい・楽しい事は何ですか？

金城さん：私は今、部品販売の部署に所属しています。部品販売業務をする中で、部品の値付けから商談までほとんどの業務を任されています。目で見て自分の成績や成長を実感出来ることにやりがいを感じています。

そして現在、弊社では広報活動(Youtube、チラシ作成)にも力を入れていて、若手の私を新しい取り組みのプロジェクトに参加させてもらい、中心的に任せてくれることにやりがいを感じます。

勝さん：私は現在、中古車の売買をする部署に所属しています。私自身、人と話をするのが好きなので、中古車の販売や買取りを通して、お客様と車の思い出など色々な話が出来ることがやりがいを感じます。

Q:今後の目標は？

金城さん：Youtubeの登録者数1000人を目指し、弊社と業界の認知度をあげ、集客につなげていきたいと考えています。

また、ポルトガル語やスペイン語などの語学力を活かし、海外展開のプロジェクトにも積極的に参加し、国際社会に貢献できるような人材になりたいです。

勝さん：お客様に、アドバイザーとしても人間としても頼られるように、お客様に寄り添った接客をこれからも心掛けたい。

中古車の売買でお客様から、「次もよろしくね」という言葉や「車のことで何かあったらいつでもここに来ちゃいます」などの温かい言葉も頂き、お客様とのコミュニケーションを通して車の「総合アドバイザー」になれるように、日々の仕事に邁進したいです。



【カーグリーチャンネル】



<https://www.youtube.com/channel/UCLLrZ3pOLh7J9ZgOzr1840w>

Q:入社11年目の田中さん、25年目の日比野さんに業界の良い所と自分達が入社した時よりも業界が変化したところは？

日比野さん：一般の方からの認知度が変わりました。自動車中古部品という自動車解体業のみが扱いをし、それを使うお客様も整備業、钣金業、中古車販売業など車業界の一部に限られていました。その中でも「中古は使わない」と、いいイメージを持たない人もいらっしゃいました。

時代が流れると共に、世の中でリサイクルという言葉がどんどんと広まり今ではSDGsでその勢いは増し、他の業界や業種でも当たり前となってきたことにより、自動車中古部品の認知度も上がりました。

そしてインターネットやスマートフォンの普及により、一般の方でも気軽に中古部品を買えるようになったことや、車を廃車する際も以前は自動車販売店等に依頼するのが一般的な流れでしたが、今ではネット検索で自分で車を売却する人が増えたことも大きな変化だと感じています。

そして業界内では、保険会社様の全損車両の取り扱い方が大きく変わりました。15年程前までは全損車の査定に対しては高年式車両であってもあまり高値を付けることなく、我々自動車解体業や自動車钣金業の方々が購入しやすい金額で売買されていました。それによって成り立っていた業種もありましたが、やはり保険会社様も段々と全損車に対して意識をするようになり、今では自動車解体業や钣金業でも高年式車両を購入することはコスト面で考えると非常に厳しくなりました。その流れや物流価格相場の上昇もあり、中古部品単価が以前に比べて高価になりました。それでも新品よりは安く、付属品や環境問題に対してもたくさんのメリットがあるので中古部品を使っていると感じます。



田中さん：女性の働き方は、私が入社したところよりもかなり変わったと思います。例えば、車両部の大島さんは、リフトや乙四の免許もありオールマイティに活躍しています。フロントも、私の入社当時は男女比が4：1くらいでしたが、今は2：3で女性で女性の方が多数の部署になりました。

社内全体でも、女性の意見が尊重されるようになってきました。例えば、休憩のお茶出しを女性がやるという暗黙のルール？の廃止や、気付いた女性が食器洗いをするといったルールも廃止し、男性社員も自分の物は自分で洗うよう意識するようになりました。他にも喫煙所を屋外に設置したり、自販機を導入するなど、女性社員からの意見

も多く採用され、全体の改善に繋がっています。

また、“資源循環”という表現は、特に女学生向けには説明し易いと感じます。“解体”と“SDGs”とはあまり似つかない感じがしますが、それを“資源循環”という表現にすると、“SDGs”に近い印象を持つことができました。実際、解体というと古臭くて汚いイメージを持つ人もいましたが、“資源循環”に変えたことで、自動車リサイクルのイメージアップを目指しています。



インタビューを通して感じたこと

社会の中で資源循環や地球環境が叫ばれ、昨今ではSDGsの浸透が進み、小学校などの授業でも学ぶ機会があり、一般企業はもちろん市民の中でも環境に配慮した生活を考え実践することは身近なこととなってきました。

同時にジェンダーフリー、女性の活躍の後押し、働き方改革などで我々の業界も随分変化したことが分かります。若者達の業界へのイメージも変わりつつあり、また我々も以前の「3K」のイメージから社内や工場内の清潔を心掛け、積極的な女性の雇用と女性の働く場の広がりや様々な働き方を考えたりしてきました。今回、新入社員のインタビューをすることで数年かけて改革してきた業界のイメージは「資源循環による社会への貢献」と「グローバルな視野を持った企業」と今までの静脈産業の一旦を担う役割のみでなく、新たな未来を創造する「先進的企業」としての新たな道のりがあることを発見しました。

今回取材した株式会社カーグリーンコマゼン様はホームページも刷新し、「資源をデザインする会社」として新たなスタートを切っています。

2022年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業4月出荷状況

07

【2022年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業 4月出荷状況】

【単位：個】

参加会社数 (社)	プリウス 20	プリウス 30	プリウス α41	レクサス CT200H	アクア /ヴィッツ	カローラアクシオ /フィールダー	クラウン HV GWS204
37	12	70	2	0	47	1	0
クラウン HV AWS210	SAI/レクサス HS250H	日産デュトロ /ブルーリボン	ノア/ヴィクシー /エスファイア	シエンタ HV	プリウス 50	不良品 A-C	合計
1	1	0	0	1	0	5	140

2021年度の結果は以下のURLをご参照ください。

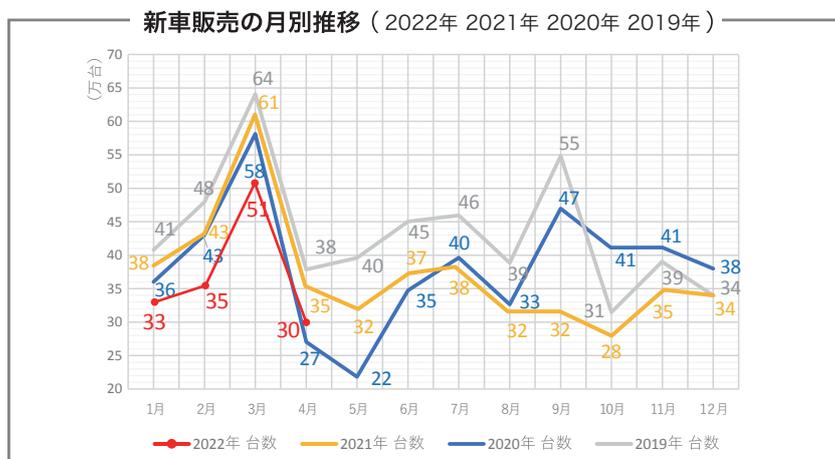
□2021年度の結果・2022年度事業説明資料はこちら → <https://elv.or.jp/index.php?itemid=1810>

4月新車販売・使用済自動車発生台数

～ 4月の使用済自動車発生台数 前月比大幅減 ～

08

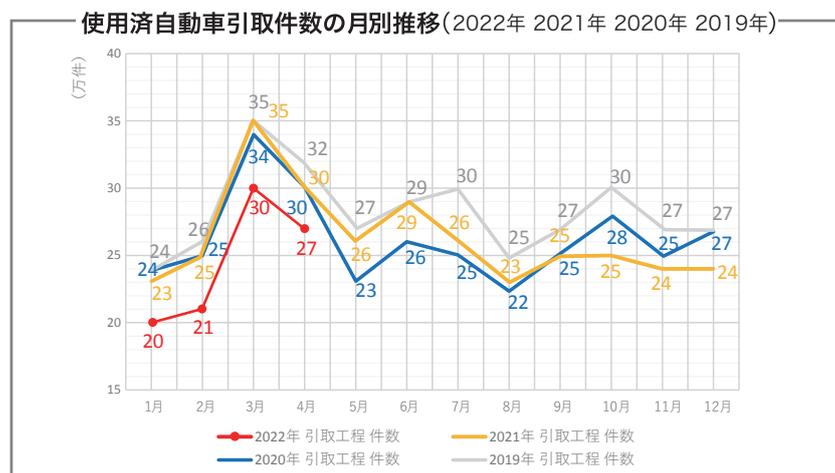
■2022年4月度 新車販売台数 299,620台 (前年同月比85.6%)



年累計	台数	前年比(%)
2022年 (3月まで)	1,496,849	84.1
2021年	4,448,340	96.7
2020年	4,598,615	88.5
2019年	5,195,216	98.5
2018年	5,272,067	100.7

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■2022年4月度 使用済自動車引取(電子マニフェスト)実施状況



引取件数
265,988件 (前年同月比 87.7%)
フロン回収工程
240,827件 (前年同月比 86.7%)
解体工程
279,408件 (前年同月比 87.0%)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

5月第3週(17日)の鉄スクラップ動向

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



5月17日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	61,000～62,000	値下がり
	南関東	61,000～62,000	値下がり
	浜値	57,500～59,000	値下がり
名古屋		60,000～61,000	値下がり
関西	大阪	61,500～62,500	値下がり
	姫路	60,500～61,000	値下がり

国内市場 3～4月上伸分の5割解消 需要家筋が追加値下げ

電炉メーカーなど需要家筋の間に5月17日、鉄スクラップ購入価格をさらに引き下げる動きが広がり、国内相場は続落した。大幅な下落を見せている海外・輸出相場に対して国内相場は依然として割高な状態にあるため、海外・輸出相場の水準に向けて下げ進む状況となっている。

東京製鉄は鉄スクラップ購入価格を、5月7日(全拠点1,000円)、12日(同1,500円)、14日(同1,000円)、17日(同1,000円)の4回、合計4,500円値下げした。ウクライナ危機後の同社の3～4月の値上げ幅は8,500～9,500円だったため、17日までに上伸分の5割が解消する動きとなっている。他の需要家筋も同様の値下げを実施。さらに、関東の湾岸筋は先行安の状況となっている。

トルコや東アジア市場では、ウクライナ危機後の上伸分が解消し、さらに下げ進む状況となっている。17日時点で市中間屋筋は国内需要家向けの出荷を急いでおり、発生薄の状況ながら各地区とも需給は緩和している状況だ。国内相場は当面、3～4月の上伸分を解消する水準まで下げ局面が続くと予想される。

【東日本地区】 追加値下げ広がり続落 値下げ幅、全域で1,000～1,500円

東日本市場の鉄スクラップ相場が5月17日から続落した。各地区の需要家筋は1,000～1,500円どころの値下げを実施した。海外・輸出相場に比べて国内相場は続落後も割高な水準となっていること、市中間屋筋が手持ち在庫の出荷を急ぎ需給が緩和していることなどから、下げ相場が続く見通した。関東地区のH2炉前実勢価格は61,000～62,000円中心。H2浜値は57,500～59,000円中心と、3月8日以来の6万円割れとなった。

【東海地区】 電炉は5月17日から1,000円の追加値下げへ

名古屋地区の市況は5月17日から下落した。地区電炉メーカー6社は5月17日から鉄スクラップの購入価格を全品種1,000円値下げ。高い水準の入荷が続き、電炉筋にとっては下げに動きやすい環境が継続している。「メーカーは製品価格への影響や入荷状況を注視しつつ小幅な下げを続けているが、反発の材料が見当たらず、市況が再び下落へと動く公算は大きい」(業者筋)との声が聞かれる。H2炉前実勢価格は60,000～61,000円中心。

【西日本地区】 5月17日から一段安 続落気配強め

西日本地域の鉄スクラップ市況は一段安の展開となった。5月17日から域内全社で値下げが波及したが、海外市場との乖離などから続落の気配が依然として強い。ただ市中ではかねてから先行きに警戒を強めるとともに、手持ち在庫の出荷を優先してきており、市況急落ながら電炉の入荷に極端な殺到感はないもよう。H2炉前実勢価格は、大阪地区が61,500～62,500円中心、一部高値63,500円見当。姫路地区が60,500～61,000円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、5月17日午後時点のもの)

— 6月の主な行事予定—

- 6月1日(水)
 - ・ 第2回常任役員会 (WEB)
- 6月7日(火)
 - ・ 第3回 広報部会 (WEB)
- 6月16日(木)
 - ・ J-FAR (樹脂リサイクル社会実装事業) 定例会
- 6月16日(木)~30日(木)
 - ・ 日本自動車リサイクル機構 第8回景況調査
- 6月20日(月)
 - ・ 日本自動車リサイクル機構 定時社員総会

※急遽、日程の変更・延期の場合がございます。

お知らせ 「自動車リサイクル士テキスト」 絶賛販売中！

自動車リサイクル士講習会ではテキストを用いて講習を行っておりますが、そのテキストのみ欲しいという方向けに1冊5,870円(税込・送料込)で販売しております。自動車リサイクル法の概要や実務内容など、図を交えつつ分かりやすい解説がされており、自動車リサイクルに携わる方々にとって正に虎の巻と言っても過言ではありません。また、解体事業者だけではなく、自治体の方や保険会社の方など多方面からご注文をいただいております。

なお、2Pでご案内した自動車リサイクル士講習会にお申込みされた方にはもれなくこのテキストが付いてきます。

社員の方への教育などにもご活用いただけますので、是非この機会にテキストの購入や講習会のお申込みをご検討ください！

- お申込みや詳細はこちらから▼ (自動車リサイクル士テキストの販売をクリック)

<https://www.elv.or.jp/35-87-0.html>



編集後記

繁忙期を終え、業界は少々落ち着き傾向にあります。それにしても慢性化とも思える新車の納期遅れは、使用済自動車の発生にも影響を及ぼしています。素材全般の市況は決して悪くないにも関わらず、在庫難、また車輛仕入価格の高騰によって、経営は決して安泰とはいえません。

そんな中、広報部会で話題になったのは触媒についてでした。言わずもがな自動車触媒は付加価値の高い、言わば虎の子ともいえる素材です。ところが情報が広く行き渡ったせいか、触媒を狙った盗難、使用済自動車からの抜き取り、悪質になると見分けの付かないイミテーションと交換されるなどの不正行為が後を絶ちません。本来ならば我々が適正処理の中で恩恵を受けるべきものですが、必ずしもそのようにはなっていない状況に憤りを覚えます。我々は触媒についてより付加価値を高め、会員がメリットを享受できる記事はできないものかといった議論を重ねましたが今回は見送りました。良かれと思ったことが徒となる場合もあることを考慮したのが理由です。残念半分、情報発信の難しさを痛感しております。

(広報部会長 永田 則男)